

(展示期間：令和7年8月5日(火)～令和7年9月28日(日))

埼玉県立熊谷図書館 令和7年度第2回資料展

江戸の出版文化

資料展示リスト



埼玉県マスコット
「コバトン」

江戸時代には庶民も読み書きを身につける機会が増え、誰もが気軽に読書を楽しむようになりました。その読書熱を支えたのが、当時の本屋さんです。江戸時代の本さんは、本の製作・出版・販売・流通・貸本を行う、本の何でも屋でした。

今回の展示では「江戸の出版文化」をテーマに、江戸時代における本屋の役割と、出版文化に関する資料を展示します。当時の本さんの幅広い仕事に関する図書を紹介するほか、江戸時代に実際に読まれていた和本（わほん）も展示します。また、埼玉県人による出版物にも注目しました。埼玉県立図書館ならではの展示を、是非ご覧ください。

📖 目次 📖

- | | |
|---|---|
| <p>1 江戸の本屋さんとその文化 … p2</p> <p>出版事情
書肆・蔦屋重三郎
和本の製作
コラム 意外と身近な「和本」</p> | <p>3 明治以降の出版文化 … p7</p> <p>明治以降の出版産業
浮世絵の変遷
コラム 明治以降の浮世絵</p> |
| <p>2 江戸の出版物 … p5</p> <p>江戸の出版物を読む
江戸と浮世絵
埼玉県立図書館所蔵の和本</p> | <p>4 埼玉県の出版文化 … p9</p> <p>埼玉県ゆかりの本屋さん
埼玉県と浮世絵
埼玉県にゆかりのある和本
コラム 大田南畝が見た熊谷</p> |

- ❑ 資料は請求記号順に並んでいます。
- ❑ 刊行後2年を過ぎた雑誌、または請求記号の末尾に「*」がついている資料は、館外貸出ができない資料です。館内でご利用ください。
- ❑ 請求記号に【久】の記載がある資料は久喜図書館所蔵の資料です。また、【配】は蔵書検索では表示されません。利用を希望される場合は、お手数ですが職員までおたずねください。
- ❑ 県立図書館の資料は、県内の公共図書館に取り寄せができます。お近くの図書館にご相談ください。
- ❑ また、一部の資料は「埼玉県立図書館デジタルライブラリー」でも閲覧できます。あわせてご利用ください。



スマホの
アイコンが目印！

1 江戸の本屋さんとその文化

【出版事情】

江戸時代に花開いた出版文化について、本屋さんはどのような役割を担っていたのでしょうか。また、江戸時代にはどのような本が出版され、誰が読書を楽しんでいたのでしょうか。本と江戸文化について記述のある資料を紹介します。

請求記号	書名	著 [編] 者	出版社	出版年月
010.21/ト	図書館と江戸時代の人びと	新藤透著	柏書房	2017
※江戸時代、農村でも本や情報を収集し、共有されていました。中奈良村（熊谷市）の名主を務めた野中家も資料を収集し、身分に関係なく広く貸し出ししていました。趣味娯楽や実用・教養などの本が多くありましたが、他村との紛争や飢饉の記録など先例を集めた記録もありました。幕末には黒船来航の情報なども収集していました。				
010.8/ヤ	江戸時代の出版と人 弥吉光長著作集 3	弥吉光長著	日外アソシエーツ	1980
010.8/ヤ	書誌と図書評論 弥吉光長著作集 5	弥吉光長著	日外アソシエーツ	1982
016.9/ト	江戸時代の貸本屋	長友千代治著	勉誠社	2023
016.9/カ	貸本問屋と貸本文化	松永瑠成著	勉誠社	2025
016.9/キ	近世貸本屋の研究	長友千代治著	東京堂出版	1982
020.21/キン	近世書籍文化論	藤實久美子著	吉川弘文館	2006
020.21/シヨ	書籍の宇宙 シリーズ〈本の文化史〉	鈴木俊幸編	平凡社	2015
020.21/ニホ	日本近世書物文化史の研究	横田冬彦著	岩波書店	2018
022.31/キン	近世藩校に於ける出版書の研究	笠井助治著	吉川弘文館	1962
023/シユ	出版研究 No.50 (2019年度)	日本出版学会編集	日本出版学会	2020
※松永瑠成著「大島屋伝右衛門と池田屋一統 売薬「処女香」を端緒として」所収。				
023.1/ウミ	海を渡った日本書籍 ブックレット〈書物をひらく〉	ピーター・コーニツ キー著	平凡社	2018
023.1/ト	江戸時代の図書流通	長友千代治著	仏教大学	2002
023.1/ト	江戸庶民の読書と学び	長友千代治著	勉誠出版	2017
023.1/ト	江戸の出版	中野三敏監修	ペリかん社	2005
023.1/ト	江戸の本屋さん	國學院大學博物館編集	國學院大學博物館	2025
023.1/ト	江戸本屋出版記録 上巻 書誌書目シリーズ		ゆまに書房	1980
023.1/ト	江戸本屋出版記録 中巻 書誌書目シリーズ		ゆまに書房	1980
023.1/ト	江戸本屋出版記録 下巻 書誌書目シリーズ		ゆまに書房	1982
023.1/キン	近世前期江戸出版文化史	速水香織著	文学通信	2020
023.1/キン	近世読者とそのゆくえ	鈴木俊幸著	平凡社	2017

023.1/シ	出版と流通 シリーズ〈本の文化史〉	横田冬彦編	平凡社	2016
023.1/シヨ	書籍文化史料論	鈴木俊幸著	勉誠出版	2019
※江戸時代は本屋が薬の流通に関与していることもありましたが紹介されています。須原屋（須原屋茂兵衛）が薬種店と本屋を兼業していたことが紹介されています。				
023.1/シヨ	書籍流通史料論序説	鈴木俊幸著	勉誠出版	2012
023.1/ニ	日本出版文化史 日本書誌学大系	小林善八著	青裳堂書店	1978
023.1/カ	武鑑出版と近世社会	藤實久美子著	東洋書林	1999
※江戸時代の須原屋は武鑑の出版によって全国的に有名な本屋でした。武鑑とは、大名や幕府の役人の氏名や石高などが記された、現在でいうところの紳士録です。				
023.9/エ	江戸の本屋 上	鈴木敏夫著	中央公論社	1980
023.9/エ	江戸の本屋 下	鈴木敏夫著	中央公論社	1980
024.9/キ	近世名家蔵書印譜 日本書誌学大系	林正章著	青裳堂書店	1982
210.5/ミフ	知識と学問をになう人びと 身分的周縁と近世社会 5	横田冬彦編	吉川弘文館	2007

【書肆・蔦屋重三郎】

大河ドラマのモデルとして採用され、一躍有名になった「蔦屋重三郎」。彼の存在は江戸という時代にどのような影響を及ぼしたのでしょうか。

請求記号	書名	著〔編〕者	出版社	出版年月
023.1/エト	江戸の読書熱	鈴木俊幸著	平凡社	2007
024.1/エト	江戸期の広域出版流通	大和博幸著	新典社	2019
R026.9/ツタ*	蔦重出版書目 日本書誌学大系	鈴木俊幸編	青裳堂書店	1998
289.1/ツ	蔦屋重三郎	松木寛著	日本経済新聞社	1988
289.1/ツタ002	蔦屋重三郎 近世文学研究叢書	鈴木俊幸著	若草書房	1998
384.9/エト	江戸吉原叢刊 第5巻 遊女評判記	江戸吉原叢刊刊行会編	八木書店	2011
※ 蔦屋重三郎が自家版として初めて出版した作品である「一目千本」が収録されています。				
913.53/サ 【久】	山東京傳全集 第2巻 黄表紙	山東京傳著, 山東京傳全集編集委員会編	ペリかん社	1993
※ 「箱入娘面屋人魚」の巻頭に「板元 蔦唐丸」（蔦屋重三郎）による「まじめなる口上」が収録されています。				
雑誌*	「蔦屋重三郎の仕事」 太陽 別冊 89 (1995年4月24日)		平凡社	1995.4
雑誌	「蔦屋重三郎 時代を変えた江戸の本屋」 太陽 別冊 319 (2024年11月25日)		平凡社	2024.11
雑誌	蔦屋重三郎が生んだ「出版文化」 サライ=Sarai 2025年2月号		小学館	2025.1

【和本の製作】

和紙を用い、和綴じなど日本古来の方法で製本された本を「和本」と呼びます。江戸時代の本の製作を知るために欠かせない「板木」や「和紙」についてもご紹介いたします。

請求記号	書名	著 [編] 者	出版社	出版年月
020/ヨ	書誌学入門	堀川貴司著	勉誠出版	2010
020.21/フ	彫摺工系譜 図版 日本書誌学大系	土井利市, 後藤憲二 共編	青裳堂書店	2019
022.021/ヨ	様式と造本 シリーズ〈本の文化史〉	鈴木俊幸編	平凡社	2025
022.3/エ	書誌学談義 江戸の板本	中野三敏著	岩波書店	1995
022.31/キ	近世出版の板木研究	金子貴昭著	法藏館	2013
022.31/ハ	板木の諸相 日本書誌学大系	永井一彰著	青裳堂書店	2021
022.31/ハ	板木は語る	永井一彰著	笠間書院	2014
022.31/ホ	和本への招待	橋口侯之介著	角川学芸出版	2011
022.31/ホ	和本入門	橋口侯之介著	平凡社	2005
022.31/ホ	和本入門 続	橋口侯之介著	平凡社	2007
022.31/ホ	和本の海へ	中野三敏著	角川学芸出版	2009
022.31/ホ	和本のすすめ	中野三敏著	岩波書店	2011
022.6/ヨ	書籍と紙	田中薫著, 宮崎公立大学人文学部 国際文化学科田中 (716) 研究室 編	書肆緑人館	2003
022.8/ハ	はじめての和装本	府川次男著	文化出版局	2003
022.8/マ	巻物・折本・両面画帳	小林喜代美編著, 荒川 達監修	オルク	2018
023.1/カ	紙が語る幕末出版史	白戸満喜子著	文学通信	2018
S585/ザ	The 紙 文房四宝 選び方使い方	埼玉県製紙工業試験場編	日貿出版社	1985

コラム 意外と身近な「和本」

江戸時代の本と聞くと、古くて貴重なものだと思う方もいるかもしれませんが。ですが図書館や古本屋など、意外と身近に和本は存在しています。和紙で作られた本はとても丈夫で柔らかく、寿命も長いのです。



2 江戸の出版物

【江戸の出版物を読む】

江戸時代には「草双紙」と呼ばれる絵入の娯楽本や寺子屋などで使われた往来物と呼ばれる教科書が出版され、多くの人々に読まれました。

請求記号	書名	著〔編〕者	出版社	出版年月
020.21/エト	江戸を読む	神奈川県立図書館企画サービス部 地域情報課編	神奈川県立図書館	2017
020.21/シヨ	書籍文化とその基底 シリーズ〈本の文化史〉	若尾政希編	平凡社	2015
020.22/シヨ	書物・印刷・本屋	藤本幸夫編	勉誠社	2021
022/キソ	近世の絵入本 日本書誌学大系	漆山又四郎著	青裳堂書店	1983
022.31/キソ	近世の文化と活字本	天理大学附属天理図書館 館編	天理ギャラリー	2004
023.1/エト	江戸の出版事情 大江戸カルチャーブックス	内田啓一著	青幻舎	2007
023.1/エト	江戸の人びと、本をたしなむ	千代田区立日比谷図書館文 化館文化財事務室編	東京都千代田区教 育委員会	2020
023.8/エト	江戸の出版統制 歴史文化ライブラリー	佐藤至子著	吉川弘文館	2017
290.38/ステ	図説総覧江戸時代に刊行された世界地図	海田俊一著	アルス・メディカ	2019
290.38/エト	江戸時代に刊行された世界地図 続編 1	海田俊一著	アルス・メディカ	2024
291.36/エト	『江戸名所図会』の研究	齊藤智美著	東京堂出版	2013
372.105/キソ	近世民衆の手習いと往来物	梅村佳代著	梓出版社	2002
372.105/タ	闘いを記憶する百姓たち	八鍬友広著	吉川弘文館	2017
375.9/キソ	近世庶民教育と出版文化 近世史研究叢書	丹和浩著	岩田書院	2005
383.81/キセ	黄表紙江戸おもしろお菓子展	虎屋虎屋文庫編	虎屋文庫	2000
721.025/エト 【久】	江戸の絵本	鈴木淳編 浅野秀剛編	八木書店	2010
913.5/F96 【久】	ちりめん本と草双紙	福生市郷土資料室編	福生市教育委員会	1990
B913.5/Ko31 【久】	江戸の戯作（パロディー）絵本 1	小池正胤ほか編	社会思想社	1980
B913.5/Ko31 【久】	江戸の戯作（パロディー）絵本 2	小池正胤ほか編	社会思想社	1981
913.56/エ 【久】	江戸読本の研究	高木元著	ペリかん社	1995
913.57/I57 【久】	江戸戯作の研究 新典社研究叢書	井上隆明著	新典社	1986
J913.57/エト 【久】	江戸の子どもの絵本	叢の会編	文学通信	2019
913.57/キ040 【久】	草双紙の世界	木村八重子著	ペリかん社	2009
913.57/タ036 【久】	江戸戯作草紙	棚橋正博校注編	小学館	2000

913.57/ト 【久】	「江戸時代の児童読物の中心となった赤本・黒本・青本の調査内容分析と翻刻研究」報告書	東京学芸大学	東京学芸大学国語教育学科古典文学第6研究室	1987
藜S930/ユ*	特集 江戸の文学 粋と洒脱の精神 ユリイカ 詩と批評 第10巻第4号	青土社	青土社	1978.4

【江戸と浮世絵】

江戸時代、娯楽的な絵入り本や浮世絵を扱う本屋は「地本問屋」「絵草紙屋」等と呼ばれ、庶民に親しまれました。浮世絵は現代では美術品と認識されていますが、当時は最新の流行や噂話などの情報を得る・見て楽しむ・読んで楽しむものでした。

請求記号	書名	著 [編] 者	出版社	出版年月
023.1/エ/	絵草紙屋江戸の浮世絵ショップ	鈴木俊幸著	平凡社	2010
632.1/ヲ	浮世絵にみる蚕織まにゅあるかみこやし なひ草	「浮世絵にみる蚕織まにゅある」かみこやしなひ草編集委員会編	東京農工大学附属図書館	2002
D/702.1/ニ 【久】	浮世絵 日本美術全集 第20巻	小林忠ほか編著	講談社	1991
D/702.1/ニ 【久】	浮世絵 日本の美 第2期・4集		学習研究社	1979
721.8/エ【久】	江戸のニューメディア	高橋克彦著	角川書店	1992
721.8/シ 【久】	出版文化のなかの浮世絵	鈴木俊幸編	勉誠出版	2017
雑誌*	浮世絵図鑑 太陽 別冊 214 (2014年1月11日)		平凡社	2014.1
雑誌*	錦絵と版木 歴博 2011年5月	国立歴史民俗博物館編集	国立歴史民俗博物館	2011.5

【埼玉県立図書館所蔵の和本】

埼玉県立図書館では多数の和本を所蔵しています。その中から著名なものをご紹介します。他にもご覧になりたい方はおたずねください。

請求記号	書名	著 [編] 者	出版社	出版年月
W123.7/コウ*	孝經	石川雅望書	蔦屋重三郎	1809 (文化6)
W180.4/シユ*	出定笑語	平田篤胤著	薑園	1849 (嘉永2)
W210.3/コジ*	古事記	太安萬侶謹上, 度会延佳校正	[出版者不明]	1687 (貞亨4)
W210.35/シヨ*	續日本紀	菅野真道等編, 伴信友校訂	林安之助	1883 (明治16)
W210.4/ヒヤ*	百練抄	塙保己一校	[出版者不明]	1803 (享和3)
※塙保己一は埼玉ゆかりの三偉人の一人で、『群書類従』の編さんで有名です。				
藜291.3/エ*	再校江戸砂子温故名蹟誌	沾涼纂輯, 恒足軒再校, 冬涉訂正	藤木久市	1772 (明和9)
W375.9/キン*	謹身往来 (天保新刻)	吉田其幸著	西村屋與八	1835 (天保6)

W375.9/テイ*	庭訓往来		須原屋伊八	1802 (享和2)
W386.1/ニホ*	日本歳時記 春	貝原好古編録, 貝原損軒刪補	日新堂	1688 (貞亨5)
藜596/リ*	料理通 初編	八百善主人著	和泉屋市兵衛	1822 (文政5)
※有名な料亭「八百善」の主人が著したことから評判になった料理書です。				
W823/コウ*	康熙字典	張玉書等撰	須原屋伊八	1863 (文久3)
藜911.14/ヒ*	百人一首		[出版者不明]	[出版年不明]
W913/H11*	絵本豊臣勲功記	八功舎徳水作, 一勇斎国芳画	和泉屋市兵衛	1858 (安政5)
W913.32/ヒ*	伊勢物語新釋	藤井高尚著	河内屋儀助	1818 (文政1)
W913.393/材*	大鏡		[出版者不明]	[出版年不明]
W913.434/ケン*	源平盛衰記		[出版者不明]	[出版年不明]
W913.434/ヘイ*	平家物語		書肆堂	1677 (延寶5)

3 明治以降の出版文化

【明治以降の出版産業】

明治の世になり、洋紙で作られた洋装本の流通が盛んになりました。本の外形の変化に伴い、出版文化はどのように変遷していったのでしょうか。

請求記号	書名	著 [編] 者	出版社	出版年月
010.8/ヤヨ	明治時代の出版と人 弥吉光長著作集 4	弥吉光長著	日外アソシエーツ	1982
023.067/アオ	青木嵩山堂 明治期の総合出版社	青木育志, 青木俊造著	アジア・ユーラシア総合研究所	2017
023.1/O24	出版興亡五十年 復刻版	小川菊松著	誠文堂新光社	1992
023.1/シユ	出版文化の明治前期	磯部敦著	ペリカン社	2012
023.1/ス	出版 新訂増補版 好不況下 興亡の一世紀	鈴木敏夫著	出版ニュース社	1972
023.1/フヨ	〈著者〉の出版史	浅岡邦雄著	森話社	2009
023.1/テイ	帝国日本の書籍商史 第2巻 文圃文献類従	大久保久雄監修, 金沢文圃閣編集部編集	金沢文圃閣	2018
023.1/ナ	本屋のはなし 日本書誌学大系	長沢規矩也編	青裳堂書店	1981
023.1/ニ	日本出版文化史	岡野他家夫著	原書房	1981
023.1/ニホ	日本出版史料 4	日本出版学会, 出版教育研究所共編	日本エディタースクール出版部	1999
※ 浅岡邦雄著「明治期貸本貸出帳の中の読者たち」など、明治期の出版に関する論文が収録されています。				
023.1/メ	メディアの曙	高橋康雄著	日本経済新聞社	1994
R023.1/メイ*	明治十年代の新刊情報誌 第1巻 文圃文献類従	稲岡勝編・解題	金沢文圃閣	2011
R023.1/メイ*	明治十年代の新刊情報誌 第2巻 文圃文献類従	稲岡勝編・解題	金沢文圃閣	2011

023.1/ㄐ	明治出版史上の金港堂 社史のない出版社「史」の試み	稲岡勝著	皓星社	2019
023.1/ㄐ	明治の出版文化	国文学研究資料館編	臨川書店	2002
023.163/ㄐ	近代大阪の出版	吉川登編	創元社	2010
D749.41/ㄐ 【久】	活字 近代日本を支えた小さな巨人たち	横浜市歴史博物館編	横浜市ふるさと歴史財団	2022
BM910【配】	書物の運命	尾崎秀樹著	出版ニュース社	1991
910.26/ㄐ 【久】	書物の近代	紅野謙介著	筑摩書房	1992
雑誌*	近代出版研究 創刊号 (2022年)		近代出版研究所	2022.3
※「研究座談会 明治期に活躍した出版社の近代性とは何か」所収。				
雑誌	近代出版研究 2号 (2023年)		近代出版研究所	2023.3
※大尾侑子著「明治期における「内容見本」の出現」所収。				

【浮世絵の変遷】

請求記号	書名	著 [編] 者	出版社	出版年月
070.21/ㄐ	ニュースの誕生	木下直之, 吉見俊哉編	東京大学総合研究博物館	1999
070.21/ㄐ	文明開化の錦絵新聞	千葉市美術館編	国書刊行会	2008
289.1/ㄐ077	林忠正 浮世絵を越えて日本美術のすべてを	木々康子著	ミネルヴァ書房	2009
※林忠正は明治時代に日本の美術品を海外に紹介する活動を行い、浮世絵が海外に広まるきっかけを作りました。				
721.025/ㄐ 【久】	激動期の美術	辻惟雄編	ペリかん社	2008
721.8/Ko49 【久】	明治開化期の錦絵	国立史料館編	東京大学出版会	1989
721.8/ㄐ 【久】	浮世絵版画の十九世紀 風景の時間、歴史の空間	菅原真弓著	ブリュッケ	2009
721.9/ㄐ 【久】	最後の版元 浮世絵再興を夢みた男・渡邊庄三郎	高木凜著	講談社	2013



コラム 明治以降の浮世絵

江戸時代に庶民の絵画として親しまれた多色刷りの浮世絵版画（錦絵）は、明治以降も出版され、日清戦争時には全盛を迎えました。しかし明治30年代になると、絵葉書と入れ替わるように衰えていきます。また、日本美術が海外に紹介される流れの中で、浮世絵は海外でも人気を博します。



4 埼玉県の出版文化

【埼玉県ゆかりの本屋さん】

埼玉にも江戸時代から続く本屋さんがあります。歴史のある埼玉県の本屋さんや出版に関する資料を紹介します。また、埼玉ゆかりの三偉人の1人である塙保己一、比企生まれの元木綱（もとのもくあみ）など、埼玉県ゆかりの人物について書かれた本とDVDも紹介しています。

請求記号	書名	著〔編〕者	出版社	出版年月
S005/サ*	埼玉史談 第9巻	埼玉県郷土文化会編	国書刊行会	1973
※稲村坦元著「出版より見たる埼玉文化」所収。明治初期の印刷業者として「熊谷本町の博文堂森市三郎、川越志義町の文港堂蜷川國蔵、鴻巣宿の長島為一郎等があり」と記されています。				
S023/キ*	近代日本の写真と出版 原田家と小川一眞	行田市郷土博物館編	行田市郷土博物館	2021
※行田出身の忍藩士・原田庄左衛門がつくった出版社「博文堂」を取り上げています。博文堂は熊谷や秩父にも販路を拡大したのち、東京にも進出し、教科書の出版にも携わりました。				
S023/ス	須原屋の百年	須原屋	須原屋	1976
※現在の須原屋は明治9年に浦和の地に誕生しました。須原屋伊八こと北沢伊八が埼玉県御用書肆の権利を得たことが浦和への出店につながりました。				
024/ソ	書肆・須原屋茂兵衛	登芳久著	雄文社出版企画室	2004
※江戸時代の須原屋は、その名を知らない人がいないくらいの有名な店でした。嘉永六年（1853）の江戸書物問屋の名簿には、「須原屋」の屋号を冠する店は七軒ありました。文化期には十二軒まで拡大しましたが、その総本家が須原屋茂兵衛店です。「須原屋」の名を冠する一軒に「須原屋伊八」があり、須原屋茂兵衛の店で修行して独立した別家でした。				
S023/タ*	書店人国記 第2巻 埼玉県	田中治男著	東販商事	1980
S023/ナ*	埼玉県古書籍同業組合（県北）史談	中村光次編, 埼玉県古書籍同業組合	埼玉県古書籍同業組合	1962
※「明治時代の熊谷の書店」として、「博文堂」や「杉浦書店」などが紹介されています。				
S023/ホ	本をめぐる文化 江戸時代の本屋と読者たち	埼玉県立文書館編	埼玉県立文書館	2025
S024.9/ツ*	「蔵書」の世界 広がる書物と在村文化	八潮市立資料館編	八潮市立資料館	2017
※八潮市内に残る史料から、農村への本の普及と文化が発展していく様子が見えやすく紹介されています。				
S025/リ	埼玉県郷土資料総合目録	埼玉県郷土資料総合目録編纂委員会編	埼玉県立浦和図書館	1971
※市町村の歴史に関する資料や埼玉県人による著作などの埼玉の郷土資料について、タイトルや著者の情報をまとめて記載した目録です。				
S025/レ*	埼玉資料解説目録稿	森田雄一, 長谷川宏編	長谷川宏	1972
※市町村の歴史に関する資料や埼玉県の文化財に関する資料などについて、解説とともにまとめられた目録です。				
S025/ロ	埼玉名家著述目録 再版	渡辺刀水編	埼玉県立浦和図書館	1971
※概ね大正時代以前の個人を収録した、著者名順の著作目録です。資料を探す基本の手引書としてご利用ください。				
S201/シ	新編埼玉県史 資料編 12 (近世3) 文化	埼玉県編	埼玉県	1982
※近世の学術・文芸関係著作を解説付きで収録しています。				

S205/カ*	関東近世史研究 第51号 2001年度大会特集 江戸の出版物と文字文化	関東近世史研究会常任 委員会編	関東近世史研究会	2002
※加藤光男著「天保期以降の出版メディアの特質とその流通」所収。埼玉県立文書館に収蔵されている資料を中心に、埼玉県域における出版物の流通と受容について紹介されています。				
S261/キ*	行田市史 下巻	行田市史編纂委員会編	行田市	1964
※忍藩士の家に生まれた江草斧太郎は、上京して京橋の書店に奉公した後、『六法全書』で有名な出版社「有斐閣」を創業しました。				
S261/ハラ*	原田庄左衛門家資料目録 行田市郷土博物館収蔵資料目録	行田市郷土博物館編	行田市郷土博物館	2021
※忍藩士が創業した出版社「博文堂」に関する資料目録です。博文堂の出版事業に関する資料をはじめ、初代庄左衛門、二代目庄左衛門らの幅広い交友関係資料などから構成されており、明治前期から昭和前期までの各界で活躍した人物の資料が多数含まれています。				
S282/ノ	農村の知識人たち	埼玉県立文書館編	埼玉県立文書館	1989
※江戸時代の農村では、名主などの富裕層が江戸の高名な学者に学び、地元に戻ってからも積極的に文化活動を行っていました。そしてその知識を地域の活動に活かしました。				
S289/エ*	書齋の窓 No.51 有斐閣80年の歩み		有斐閣	1957
※江草斧太郎（行田市出身）が創業した出版社「有斐閣」の創業当時が紹介されています。				
S289/ハ	塙保己一と「群書類従」	さいたま文学館編	さいたま文学館	1999
S289/ハ 【DVD】	塙保己一の生涯	本庄市教育委員会企 画・制作	本庄市教育委員会	[2015]
S290.7/カ*	埼玉県地誌略	 川島楳坪, 伊藤直共 著, 狩野良信画	埼玉縣	1877
※当時の「小学校用教科書」です。巻末の「売捌書肆」から、埼玉県内の教科書販売店名が確認できます。「埼玉県立図書館デジタルライブラリー」でも見ることができる資料です。				
R291.09/ニ*	日本名所図会全集 [6] 東海道名所図会下巻 東都歳時記	名著研究所編	名著普及会	1975
※東都歳時記は、天保9年に須原屋茂兵衛、須原屋伊八が出版し、齊藤幸成編・長谷川雪旦画の江戸近郊の年中行事を月別にまとめて解説したものです。冬之部の「歳暮交加図」には「書肆」と書かれた看板が描かれており、本屋の店先の忙しい様子がうかがえます。本屋の掛け看板「江戸名所図会」から、この本屋は須原屋を描いたものと考えられています。				
372.1/Sa24	寺小屋玉松堂日記 「埼玉県教育史」別冊資料	埼玉県教育委員会編	埼玉県教育委員会	1968
※埼玉郡野村（現行田市大字野）にあった寺子屋玉松堂の植田養山の日記です。当時の寺子屋は各地に存在し、「読み書き算盤」が教えられていました。資料を通して、庶民の学習の様子を知ることができます。				
S375.9/シ*	尋常小學習字本 第3年後期	巻菱澤揮毫、埼玉私 立教育會編	長嶋爲一郎	1893
※奥付に「発行兼印刷者 長嶋爲一郎」と書かれています。また、浦和の須原屋の創業者である「高野幸吉」の名前もあります。				
S375.9/シ*	尋常小學理科筆記帳 第4學年用	埼玉縣教育會著	須原屋書店	1923
※大正期に使われた教科書です。表紙に「浦和 須原屋書店發兌」とあります。「發兌」は「はつだ」と読み、書籍などを発行することを意味します。				
S375.9/ソ*	村名習字本	単山先生書	須原屋伊八	1877
※明治の書家高斎単山の書と類推される習字の教科書です。奥付には「發兌人 須原屋伊八」とあり、本店が浅草、支店が浦和にあることがわかります。				

S911.1/㊦*	元木網と天明狂歌の展開	谷口學著	楓橋書房	2006
※狂歌師元木網は杉山村（嵐山町）で生まれ、江戸で天明狂歌の代表的な作者として活躍しました。巻末には木網の作品がまとめられています。				
911.4/㊦【久】	川柳江戸名物図絵	花咲一男著	三樹書房	1994
911.4/㊦【久】	川柳江戸名物 増訂版	西原柳雨著 石川一郎増訂	春陽堂書店	1982
※須原屋が『武鑑』を出版していることを題材にした川柳が紹介されています。				

【埼玉県と浮世絵】

熊谷直実や中山道など、埼玉に関わりのある人物や風景を題材とした浮世絵を集めました。また、埼玉にゆかりのある浮世絵師・芸術家に関する資料もあわせて紹介します。

請求記号	書名	著 [編] 者	出版社	出版年月
S022/㊦	文と絵との出会い	さいたま文学館編	さいたま文学館	2001
※小村雪岱は川越に生まれ、装丁や舞台装置、挿絵の世界で活躍しました。				
S682/㊦	浮世絵にみる中山道と熊谷直実展	立正大学教養部編	立正大学教養部	1986
S721/㊦	浮世絵・熊谷次郎直実	熊谷市立図書館美術、郷土係編	熊谷市立図書館	2004
※熊谷直実は、源平合戦を題材とした歌舞伎や浄瑠璃「一谷嫩軍記」が上演されたことから、役者絵や歌舞伎絵にも描かれ人気を博しました。				
S/721/㊦*	河鍋暁斎・暁翠伝	河鍋楠美著	KADOKAWA	2018
※河鍋暁斎は幕末から明治にかけて活躍した絵師です。記念美術館が蕨市にあります。				

【埼玉県にゆかりのある和本】

埼玉県に関連する記述のある和本をご紹介します（※複製を含む）。現代の洋装本とは異なる趣のある資料を是非ご覧ください。

請求記号	書名	著 [編] 者	出版社	出版年月
藜281.03/㊦*	享保武鑑		須原屋茂兵衛	1730
藜291.09/㊦*	東海木曾両道中懐宝図鑑 		須原屋茂兵衛	1842
※東海道・木曾街道を紹介した道中記です。「埼玉県立図書館デジタルライブラリー」でも見ることができる資料です。				
S289/㊦*	塙検校画像	藤原広定著	温故学会	[19--]
※軸装になっています。				
S/290/㊦*	江戸名所図会 第13冊	斎藤長秋編, 藤原縣麻呂校, 斎藤月岑校, 長谷川雪旦画	埼玉県立浦和図書館 (製作)	1987
※「大宮驛氷川明神社」や「調神社」が描かれています。				
S292.1/㊦*	川越素麺	板倉良矩著, 安部立郎校注	埼玉県立浦和図書館 (製作)	1988
※現存するものでは最も古い川越の地誌です。				
S911/㊦*	めくみの花 	井上淑蔭編	埼玉県立浦和図書館 (製作)	1985
※坂戸市にゆかりのある国学者井上淑蔭の主唱により、県内歌人の短歌151首、長歌2首、今様歌を集めたものです。「埼玉県立図書館デジタルライブラリー」では、1859（安政6）年刊の原本を見ることができる資料です。				

S911/イ*	都々美能花 初編		井上亀友著	埼玉県立浦和図書館 (製作)	1985
<p>※著者の井上亀友は、国学者井上淑蔭の三男です。井上淑蔭の編んだ『めくみの花』『桜花帖』にならい、県内の俳人22人が川島堤の桜花をよんだ句を収めたものです。</p> <p>「埼玉県立図書館デジタルライブラリー」では、1861（文久1）年刊の原本を見ることができる資料です。</p>					
S911/ジ*	泉山景境詩歌集		竺巖編	埼玉県立浦和図書館 (製作)	1988
<p>※埼玉郡北河原村（現行田市）泉福山照岩寺の住職竺巖が、寺の周辺の8景12境を題詠に選び、当時の名士文人の漢詩、和歌、連歌3巻3冊に編さんしたものです。</p> <p>「埼玉県立図書館デジタルライブラリー」では、1737（元文2）年刊の原本を見ることができる資料です。</p>					
SA911.2/カ*	河越千句			埼玉県立浦和図書館 (製作)	1981
<p>※太田道灌の父道真が文明元年（1469）正月10日から3日間、川越城に関東下向中に心敬、宗祇を迎え、連歌同好の関東武家を招いて興行した際の句が収められています。「埼玉県立図書館デジタルライブラリー」では、溝口暁谷手写の原本を見ることができる資料です。</p>					

コラム 大田南畝が見た熊谷

享和二年（1802）、大阪銅座勤務を終えて江戸にもどる途中、大田南畝は熊谷に立ち寄りしました。大田南畝著『壬戌紀行』（『大田南畝全集 第八巻』（岩波書店 1986）所収）には、「熊谷の駅にいれば道はゞ岡部よりもひろく、人家ことに賑ひて江戸のさまに似たり」、「薬種とかける文字はじめて楷書に書いて、江戸の薬舗に異ならず。去年東海道よりはじめて京大阪の町々をもみしに、薬種の文字はかならず草書にかきてみえしが、けふはじめて江戸に入れる心地す。」と記されています。

参考 鈴木俊幸著「武州熊谷の書肆と書籍流通」（『中央大学紀要 言語・文学・文化（133通巻第296）』p85-113 中央大学文学部 2024.2）
《中央大学学術リポジトリ》（<https://chuo-u.repo.nii.ac.jp/records/2001937>）



資料展「江戸の出版文化」については、埼玉県立図書館のウェブサイトで紹介しています。詳しくはこちらの二次元コードからご確認ください。

資料リストに記載のある資料の一部は「埼玉県立図書館デジタルライブラリー」でも見ることができます。和本の内容をお手持ちの機器からも是非ご覧ください。詳しくはこちらの二次元コードからご確認ください。



埼玉県マスコット「コバトン」
「さいたまっち」



埼玉県立熊谷図書館 人文・社会科学資料担当

〒360-0014 埼玉県熊谷市箱田5-6-1

TEL：048-523-6291 FAX：048-523-6468

<https://www.lib.pref.saitama.jp/>

